仲谷鈴代記念賞

「リハビリ・栄養・口腔連携体制加算の算定に向けて」
～タスクシェア・タスクシフトの取り組み～

社会医療法人　栄公会　佐野記念病院　田仲琴音

この度は、第 28 回 (公社) 大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」をいただき、誠にありがとうございます。

当院のリハビリテーション部では以前より生体インピ―ダンス法を用いた体組成測定を行なっていました。リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算算定に向け、多職種との連携を円滑に進めていくため、栄養管理科が体組成測定を行えるように取り組みました。

まずは、リハビリテーション部による体組成測定方法や結果項目の見方についての勉強会を開催し、体組成計の使用可能時間をリハビリテーション部と栄養管理科で調整し、10 時～ 11 時と 14 時～ 15 時を栄養管理科が担当することになりました。栄養スクリーニング (MNA-SF) で抽出された入院患者と回復期病棟対象疾患患者に対して体組成測定を行うとともに、栄養管理科では GLIM 基準を用いた栄養状態の評価を行ないました。

その結果、2024 年 6 月～ 12 月の間に約 440 名測定し、リハビリテーション部とのタスクシェア・タスクシフトに取り組んだことで、連携体制加算算定に向けての準備が円滑に進みました。

栄養管理科では、入院患者や家族に測定結果を数値で説明することができ、食事アドバイスに役立っています。測定結果には筋肉量や体の水分量、体脂肪量などが表示されるため、患者個人に合わせてたんぱく質を多く含む食品や食事バランスについての説明もしやすくなりました。さらに、SMI 値が標準よりも低い患者には、必要なたんぱく質量が摂れているかモニタリングし、たんぱく質を付加するかを適宜多職種で検討しています。

入院時、一か月後、退院時の体組成測定をリハビリテーション部と継続して取り組んでいる中で、SMI 値の数値の改善がみられ、管理栄養士が早期介入することの重要性を実感しています。

連携体制加算算定開始に向けて、栄養スクリーニング (MNA-SF) でリスクありとなった場合、入棟後 48 時間以内に体組成測定を実施し、筋肉量の評価を行うことが課題となっています。そのためにも、測定の技術と経験を重ね、さらに、GLIM 基準を活用し、多職種と連携して低栄養状態の早期発見に繋げたいと思います。

最後になりましたが、今回の発表にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長の先生方に深く御礼申し上げます。

仲谷鈴代記念賞

若年女性の食生活の現状について

大阪市保健所　大内田由美

この度は、第 28 回（公社）大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」をいただき、ありがとうございました。

大阪市では大阪市健康増進計画において、適正体重の維持、適切な量と質の食事を摂取し食生活習慣を改善することを健康寿命延伸につながるための取り組みの一つとしています。各区保健福祉センターには栄養士が配置され、母子事業・健康教育等に従事していますが、若い女性で極端なやせ願望を持っている方、食生活に偏りがある方などが多いことが共通認識されてきました。若い女性の食生活の乱れは将来の健康を左右するだけではなく、自身の子どもの食生活に大きな影響を及ぼすため、今回実態把握を目的としたアンケート調査を行いました。結果、妊娠中の方･非妊娠の方ともに、「やせ願望」が高く、主食･主菜･副菜をそろえた食事をとっていない、カルシウム摂取量が推奨量を大きく下回っているという現状が浮き彫りになりました。やせ願望が食事バランスに影響を与え、その結果カルシウム補給食品の摂取も少なくなっていると思われます。現在、大阪市の女性の要介護の原因疾患の第 1 位は「骨折・転倒」、医療費分析では骨折の入院医療費が第 1 位であり、大変憂慮すべき状況であることがあらためてわかりました。一方で半数の方がサプリメントをとっており、そのほとんどが「葉酸」「ビタミン類」でした。若い女性の中ではサプリメント摂取は一般的であり、妊娠中における葉酸の重要性が浸透している反面、偏った食生活をサプリメントで補おうとしている姿を読み取ることができます。この結果を受けて、今後はサプリメントの正しい活用方法も含む栄養バランスのとり方と、適正体重に対する正しい理解について啓発を行っていかなければいけないと考えます。

最後になりましたが、今回の発表に際し、アンケート調査に協力いただいた大阪市各区保健福祉センター栄養士の皆様、ご推薦いただきました座長の先生方に深くお礼を申し上げます。